

陸上自衛隊 1/2tトラック(警務隊)

Fujiiri

《1/2tトラックの概要》

1/2tトラックは、平成8(1996)年に陸上自衛隊に採用され、幾度かの仕様変更を経て現在も調達が続けられているボンネット形の総輪駆動(4WD)車です。6座席のいわゆるオフロード乗用車あるいは多用途トラックとして、陸自のほぼすべての職種(兵科)にわたる部隊に配備され、指揮・連絡、情報収集、警戒、通信、重車両の誘導、救護、軽輸送など、あらゆる用途に使われています。誘導兵器その他の器材を搭載した派生系車両を除く標準タイプだけでも7000両近くが保有され、駐屯地記念行事や部隊の移動においては、各部隊の指揮官車として隊列の先頭を走るほか、防災訓練や災害派遣などで一般の目に触れる機会も多いことから、陸自を代表する顔としても親しまれています。現用の1/2tトラックが採用されるまでの同級車両としては、73式小型トラックが使われていました。これは三菱自動車車がライセンス生産を行っていたアメリカ(ウイリス・オーバーランド)のジープをベースとしており、各部に第二次世界大戦以来のジープに見られるデザインを色濃く残していました。全般的な構造やエンジンなどに関して、ディーゼルの排気ガス規制や都市部での運行制限条例、また衝突安全性などに係わる要件が年々厳しさを増すなか、73式小型トラックの改良によって対応しきれぬものではなく、後継車の新規開発が急がれました。とはいえ、開発はゼロからのスタートではなく、三菱自動車車のオフロード乗用車「パジェロ」(1991年に発売された2代目)をベースとして、これに陸自の要求仕様を盛り込むかたちで行なわれました。パジェロのライナップのなかでも、ショートボディ(3ドア)車に設定されていたキャンパスルーフ(Jトップ)モデルは、18インチの大径専用タイヤの装着に代表されるように、クロスカンントリーにおける走破性ももっとも高いグレードといわれています。陸自仕様では、ラダー式フレームを延長して車体後部の容積を拡大、ベース車の2列4座席に加えて、横向きに座る折り畳み式の3列目座席を備え、乗車定員6名とされました。また、積載性や牽引性への配慮から、コイルスプリングを使用した3リンク式車軸懸架の後部サスペンションは、リーフスプリングによる車軸懸架に変更されています。ボディパネルやフェンダーなどの外観も、市販モデルのラインに準じながらも、完全に独自のデザインとなっている。なお、本車はあくまで73式小型トラックの改良版として扱われたことから、導入当初の名称は「(新)73式小型トラック」が使われましたが、平成13(2001)年度に納入された車両から、現行の「1/2tトラック(Truck, Utility)」と改められました(現場の使用者の間では「パジェロ」「小型」「1/2トン」「小トラ」などと呼ばれているのが聞こえています)。

《1/2tトラックの構造》

箱型断面のラダーフレームに搭載されたエンジンは、4M40型4ストローク水冷直列4気筒SOHC、インタークーラー付きターボディーゼル。排気量2,835cc、最高出力は約85kW(115ps)/4,000rpm、最大トルクは約290N・m(29.6kgf・m)/2,000rpmとされます(ベース車の数値は、同じ回転数で103kW(140ps)、314N・m(32.0kgf・m)なので、出力をやや落としたり信頼性を高めているのが窺えます)。主変速機は、前進4速・後退1速のオートマチックで、駆動方式はFRを基本としたパートタイム4WD。ピスカスLSD、デフロック機構付きセンターデフを備えた副変速機によって、高速走行状態においても2WD(後輪駆動)と4WDの切り替えができ、停車時には高速/低速の切り替えが可能となっています。世界初と謳われた「スーパーセレクト4WD」駆動システムにより、舗装路上か悪路にかかわらず、高い走行性能を兼ね備えているのが大きな特徴です。サスペンションは、前輪がダブルウィッシュボーンにトーションバースプリングを組み合わせた独立懸架、後輪は前述のように車軸懸架(リジッド)式です。タイヤは215/85R18LT規格(幅215mm、扁平率85%、径18インチ)のチューブレス・ラジアルで、マッド&スノー(いわゆるオールシーズン用)のパターンをもつ小型トラック(LT)用タイヤが装着されています。乗車定員は6名。第1列のシートは、前後位置、シートバック(背当て)の調整(ともにメモリー機能付き)ができ、助手席は2列目シートへの乗下車のさいに動かす必要があるため、ウォークイン機構を備えています。第2列は背当ての角度調整と前倒しができるほか、背当てを折りたたんだ座席全体を前倒しして積載スペースを拡大することができ、3列目は横向きに向かい合うかたちでセットされ、座面・背当てともに折りたたみ式となっています。現代の車両として当然ですが、前側の4座席には第2種(3点式)ELR(緊急巻き取り装置)付きシートベルトが装備されています。ただし、ロールバーなしの車両は肩ベルトを取り回さないことから、腰ベルトのみの第1種(第1列のみELR付き)となります。また、背当てをたたんだ状態の2列目座席と3列目座席に取り付けることができる「無線機架台用座席」が用意され、無線機搭載の必要に応じて使用されています。ところが、近年新たに採用されて部隊への交付が進んでいる広帯域多目的無線機(広多無)は、車体右側後部のタイヤハウス上に収まるサイズに小型化されているため、この座席を使用する機会は減っているようです。

《7変化するボディ形態》

上部ボディ、一般車でガラスエリアと呼ばれる部分は、旧型の73式小型トラックから劇的に進化し、システム化されました。まず、3モード(高低および間欠)の電動リンク式フィバが付属するフロントウィンドウ(JIS規格の合わせガラスA)は前倒しができます。側面ドアの窓枠(窓は強化ガラス)は取り外すことができるほか、同様に後部ドアの窓枠(窓はビニール

板)も着脱式となっています。なお、後部ドアは右の外側に開く構造で、ドアの下端付近に開閉(ロック解除)ボタンが付いています。鋼製の幌骨を介して取り付けられる幌は一部が二枚合わせ構造となっており、材質は「ビニロン・ポリエステル交織帆布10号」と呼ばれるキャンバス地です。これに付属する側面窓の材質はビニール板で、これも取り外すことが可能です。ロールバーは、車両転覆などに際して乗員を保護する役目を果たしますが、これもボルト留めによる着脱式とされ、これらの組み合わせによって、幌や窓をすべて装着した乗用車然とした姿から、それらを一いつけられないフルオープン状態まで、必要に応じてさまざまな形態を取ることができるとは、やはり市販車と一線を画するところ。左右ドアには、89式5.56mm小銃を携行するためのホルダ「小銃保持具」が取り付けられ、ロールバーの上部には機関銃の車載銃架を装着することができます(車載銃架は、車両の一部には含まれませんが、標準装着では5.56mm機関銃MINIMI用と、中隊/連隊本部が対空用として使用する12.7mm重機関銃用が用意されています)。無線アンテナ用台座のブラケットは、車体後部左右に取り付けるのが標準仕様で、車体前部のものはいわゆるオプション扱い(調達要領指定書による指定)となっています。ただし、アンテナの配線用コネクタや無線機の電源用ソケットなどは、車内各所にあらかじめ標準装備されているようです。銃架などは対照的に、陸自車両としてもっとも早い時期に標準装備されたエアコン、情報収集用のラジオ(FM/AM)、左右ドアの前方に取り付けられた灰皿などは市販車ベースならではの装備といえるかもしれませんが、標準装着ではないものの、エアコンのほかに「リア別体暖房機」が用意されており、寒冷地向けの車両に装備されているようです。車両後端にはビントルブック(牽引具)が取り付けられ、1/4tトレーラーを牽引することができます。なお、トレーラーには弾薬や糧食などをはじめとする補給品のほか、81mm迫撃砲一式や偵察用オートバイが積載可能なサイズとなっているのがやはり陸自の装備品として興味深いポイントです。車両のサイズは、全長約4,140mm、全幅1,770mm、全高1,970mm、ホイールベース約2,420mm、荷室高約1,170mmと発表されています。車両の重量(陸自は「質量」と表記)は、空車重量(燃料、オイル、冷却水などを全量搭載し、工具や付属品も含む状態)。ただし、タイヤチェーン、燃料携行缶、斧およびショベル(含まない)は1,950kg、標準状態(空車状態に6名が乗車。1名当たり80kgと換算)は2,430kg、標準積載状態(空車状態に乗員2名と正規積載量440kgを搭載)の重量は2,550kgとされています。余談ですが、サイズや重量の諸元はメルセデス・ベンツGクラス(ゲレンデ・ヴァーゲン)とまったく同格であり、ラリー競技で培われた「三菱パジェロ」のブランド力と合わせると、日米共同訓練などにおいて、(このクラスの車両を装備体系から廃してしまった)アメリカ軍から、1/2tトラックを羨ましがられるというのも、あながち同盟国の社交辞令とは言い切れないのかもしれない。

《1/2tトラックの派生型》

「防衛省仕様書」の附属書に規定されている1/2tトラックの派生モデルは2種類あります。そのひとつが「1/2tトラック(警務用)」で、文字どおり警務隊のパトロールカーとして使用されるものです。基本的な構造は標準車と同じですが、「緊急自動車用装置」として、電子式サイレンアンブ、マイクロホン、スピーカー、赤色警告灯(回転灯)および丸形補助警告灯が装備され、電子式サイレンアンブによってそれらの各操作を行なうことができます。アンブおよびマイクロホンは室内前部の中央付近、赤色警告灯は室外天井部(フロントウィンドウ上部中央)、スピーカー(電子式サイレン)は車両前部右側(フェンダー上)、丸形補助警告灯はフロントグリル(バンパー上)に取り付けられ、外観が標準車と異なるほか、ホイールとスピーカーを含む車体外部が白色(防衛省規格の色番号1401)に塗装されています。ただし、1/2tトラック(警務用)は、装備割合こそ多くありませんが、一般の部隊でも職種を問わず広く使用されています。その場合は、赤色灯やサイレンを装備していながら車体全体がOD色(オリブドラフ)で塗装され、ホイールは標準車と同じブラックとなっています。

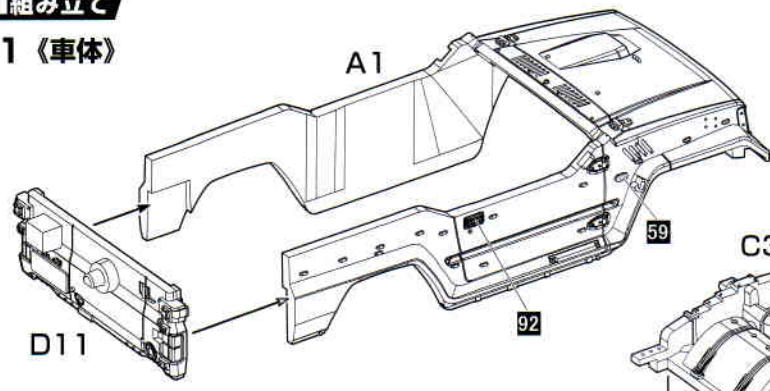
《マイナーチェンジ》

調達が進むにつれて、1/2tトラックの仕様が変更され、外観にも変化が現れます。車体右側の前部フェンダーに切り欠きを設け、バンパー上に1灯を装備していた Fogランプが、前部バンパーに開口を設け、2灯が装備されるようになりました。幌に関しては、側面窓(ロイド板)のサイズが小さくなり、窓のフチ取りやサイドカーテン部の縫製などにも変更が見られます。一見して分かりやすい変化は、エンジンフード上のバルジに開口していたインタークーラー用吸気口がバンパーとフロントグリルの間に移動し、専用の吸気口スクリーン(パンチングメッシュ)が装着されたことで、フード上面がフラットな面になりました。これは2014年度調達分から、エンジンが変更されたことに伴うもので、4N15型と呼ばれる排気量2,442ccのインタークーラー付きターボディーゼルが搭載されています。シリンダー配置は従来と同じ直列4気筒ながら、シリンダーヘッドはDOHC16バルブを採用し、過給器のタービン/コンプレッサーに変換ペンを備えることなどにより、海外向け市販車のデータでは133kW(181ps)/3,500rpmまで最高出力が向上しています。ただし、1/2tトラックではこれも従来仕様と同等に減格して搭載しているということです。

解説: 浪江俊明氏(月刊アーモリー)

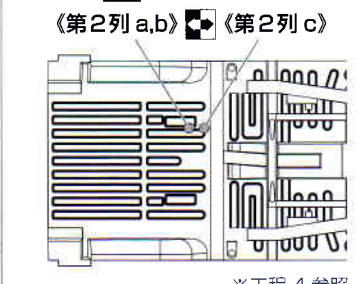
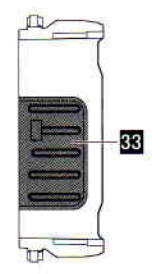
■組み立て

1 《車体》

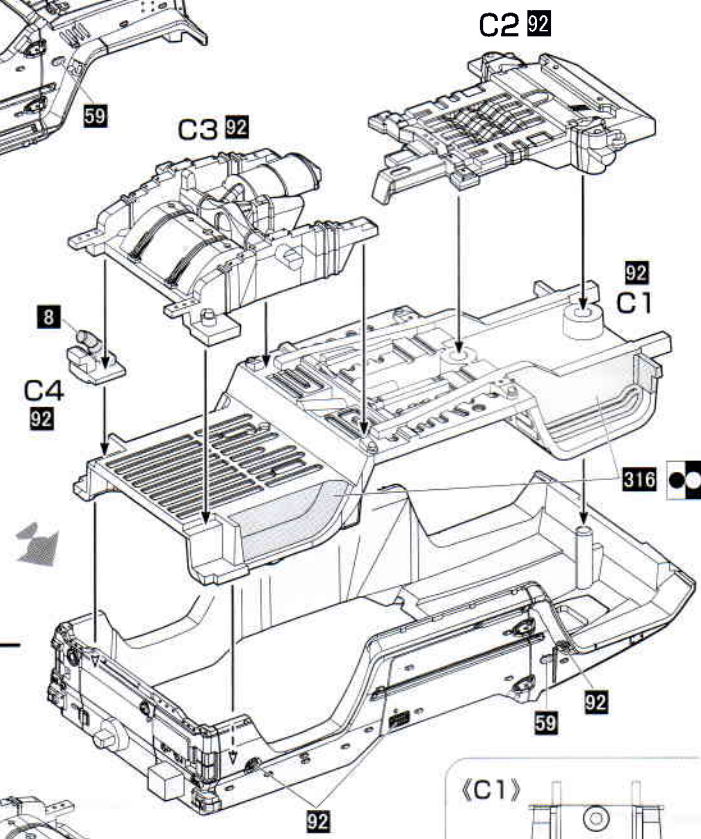


- 後期型 1 両、前期型 1 両が作れます。
幌の取付は自由によべます。
- 塗装指示の無い部分は全て 316 です。

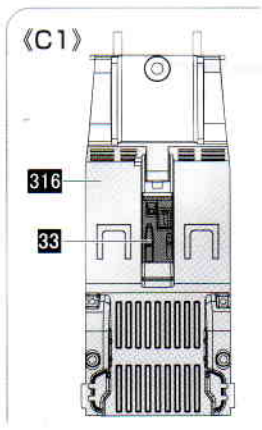
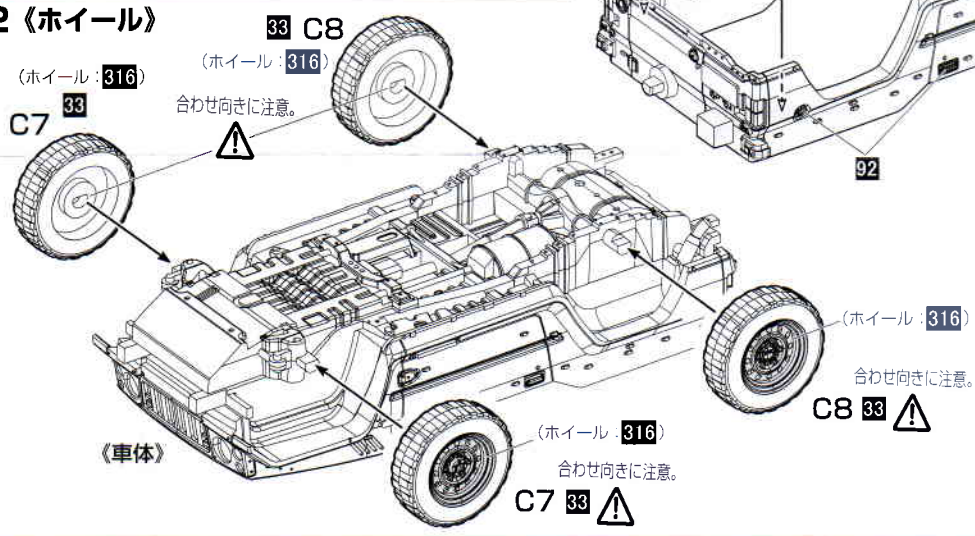
《D11 内側》 《C1》 穴開け(0.9mm)します。



※工程 4 参照

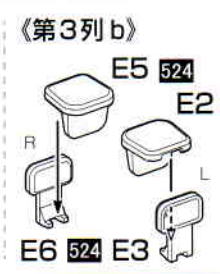
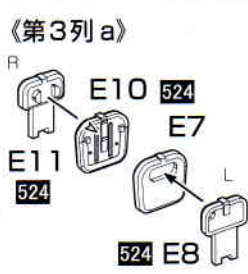
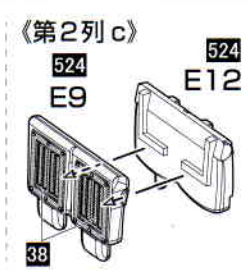
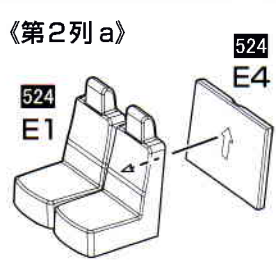
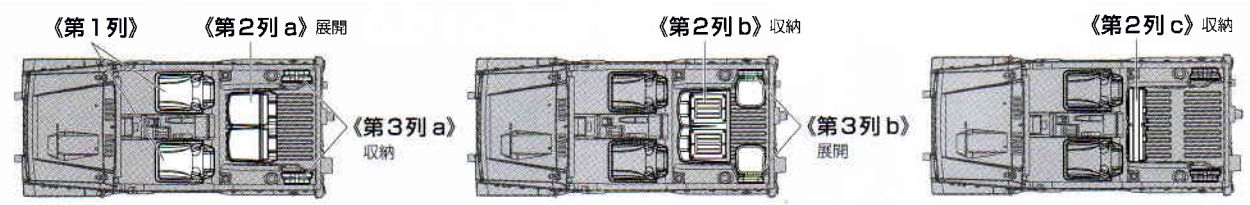


2 《ホイール》





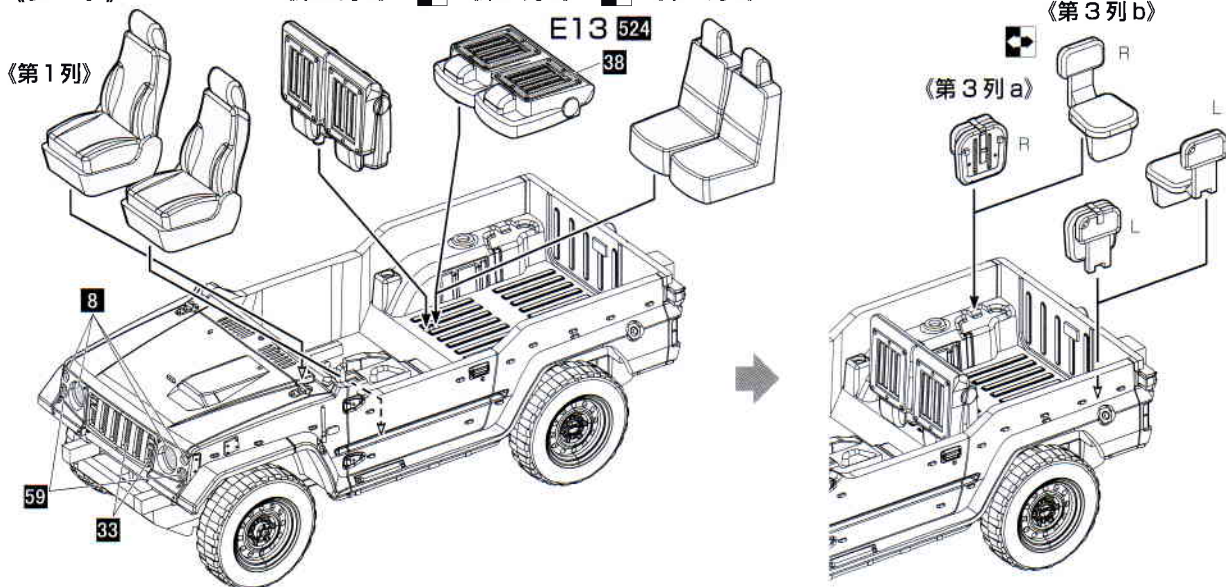
3 《シート》

第2列席は3タイプ(a~c)、第3列席は2タイプ(a~b)の形態を選べます。

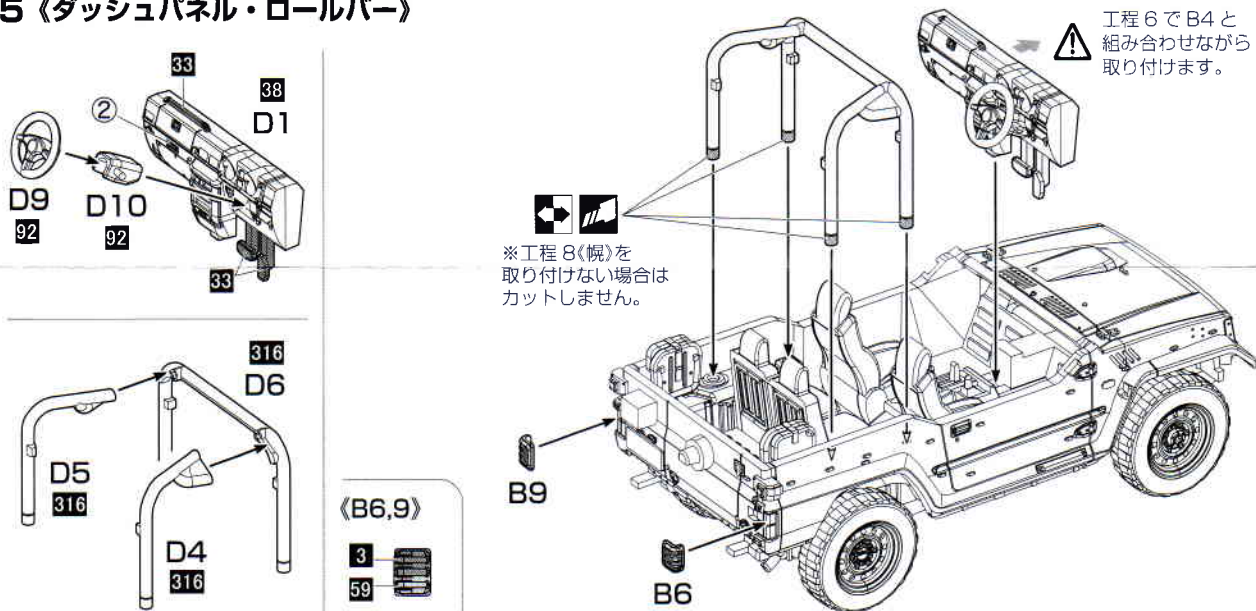


4 《シート》

《第2列 c》  《第2列 b》  《第2列 a》



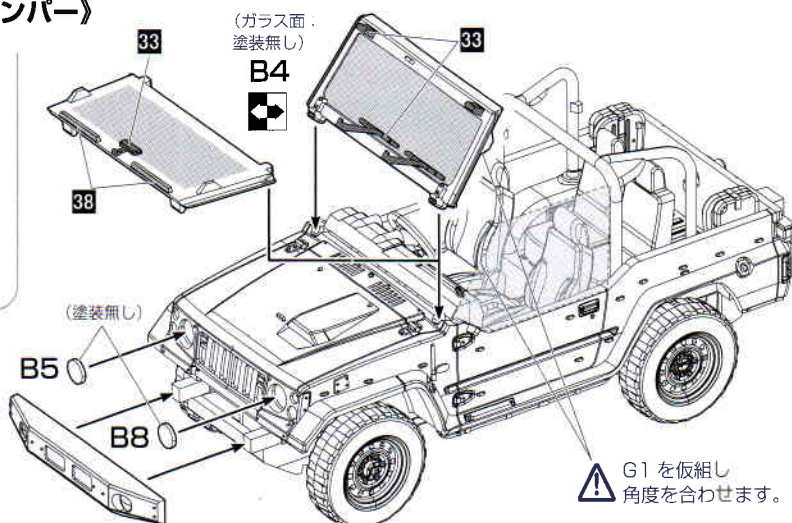
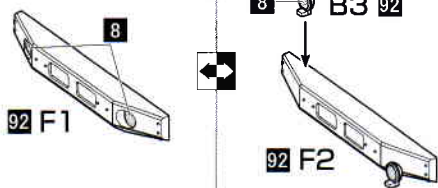
5 《ダッシュパネル・ロールバー》



6 《フロントウィンドウ・フロントバンパー》

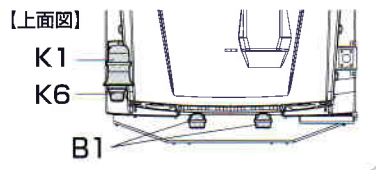
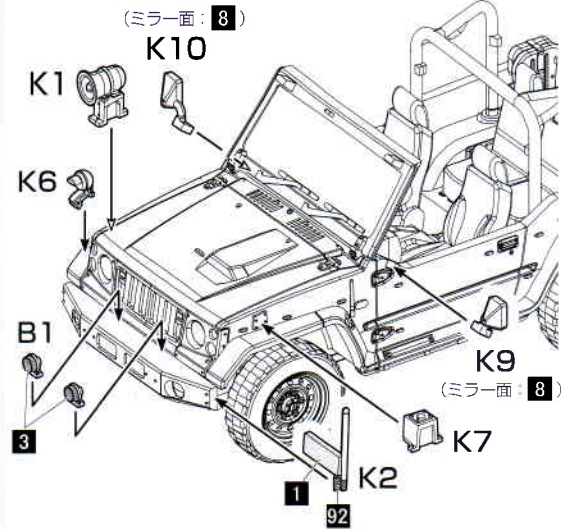
〔後期型〕

〔前期型〕

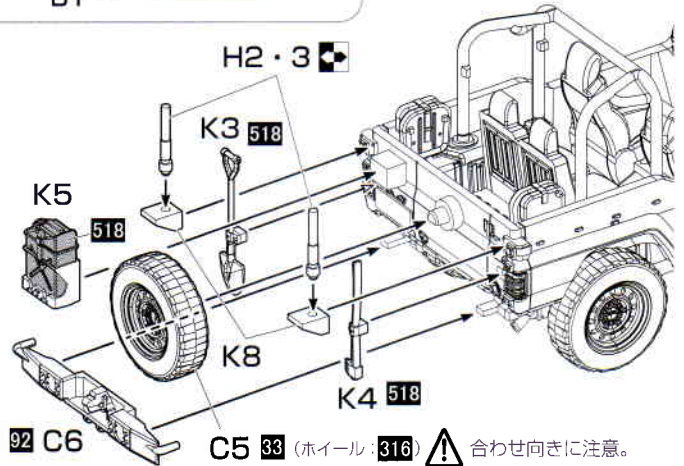


フロントウィンドウ(B4)：
警務隊車両は幌付きが標準状態ですが、車両の仕様としてはフロントウィンドウを前に倒すこと可能な機構が備わっています。

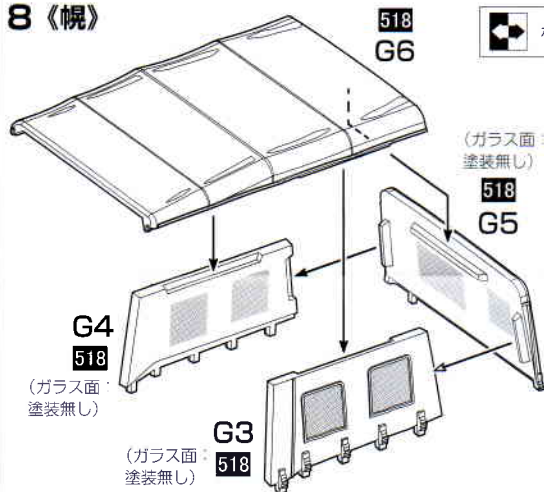
7 <リヤバンパー・アンテナ>



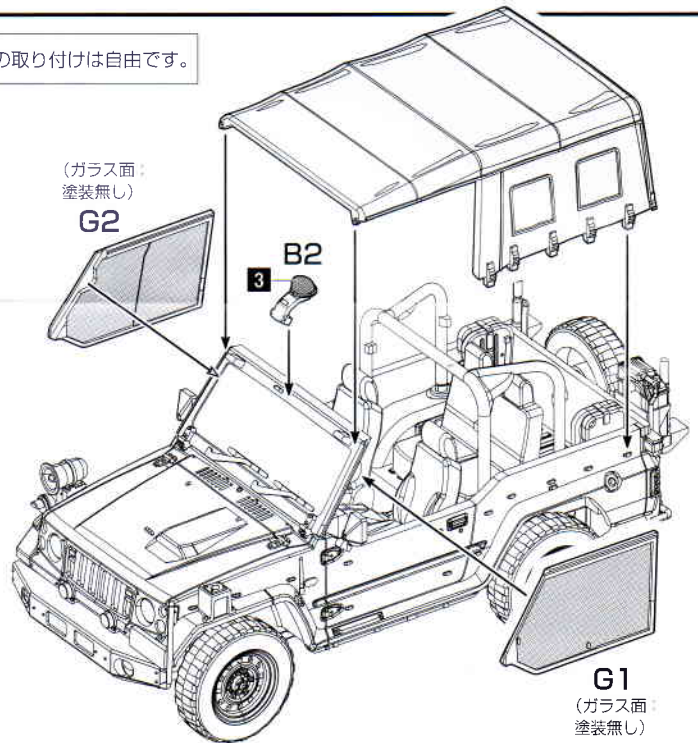
アンテナ H2・3 を
選択します。



8 <幌>



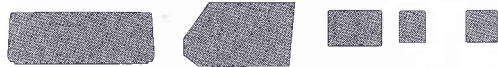
横窓の取り付けは自由です。



Points!

下図の型紙にマスキングシールをカット、ご使用ください。

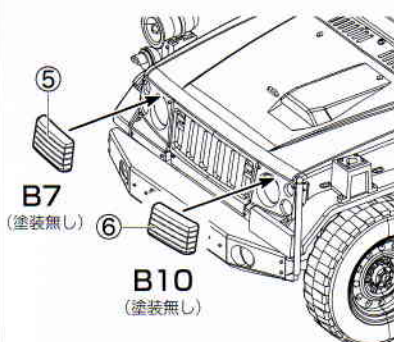
《B4》 《G1,2》 《G5》 《G3,4》



<リアリティを高めるボーナスパーツを使って、さらにディテールアップ！>

●ライトガード

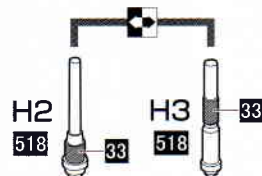
ヘッドライトに取り付けます。



●野外無線機

室内に搭載します。

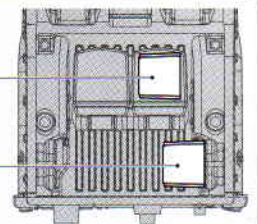
野外無線機
(JVRC-F70/71/72/80)



《無線機の置き場所》

第2列席 (右) の背をたたんだ状態で
架台をまたがせ置く。

第3列席 (右) の座面に座板等を敷き、
その上に置く場合やたたみ床面と架台
を介して又は床面に置く場合もあり。



H2 パーツ: 野外無線機アンテナ (旧型: 空中線 JAT-F12) 野外無線機と
組み合わせられるアンテナで、短く太い基部を持つ本アンテナは古いタイプに
属し、V16 型前期型とは馴染む組合せのもの。

H3 パーツ: 野外無線機アンテナ (従来型: 空中線 JAT-F30) 野外無線機と
組み合わせられるアンテナ (従来型) 今も比較的多い形状のもの。このタイプは
10 式戦車 (C1-2 ロット) の右側に搭載されていたものと同型である。

▲ 注意 組み立てを始める前に、必ずお読みください。

●部品を取り出した後のビニール袋は、小さなお子様が無防犯に頭が刺さったり窒息する危険がありますので破り捨ててください。●プラスチック部品にはバリや、やむをえず尖った箇所があります。手指に怪我をしないよう注意してください。●ニッパーなどの工具を使用する際は、付属の説明書を良く読み、怪我に十分注意して正しくご使用ください。●小さな部品は誤飲、窒息の危険があります。小さなお子様の手が届かない場所で組み立て、保管をおこなってください。●接着剤や塗料などを使用する場合は、中毒の危険性があります。付属の説明書に従い、換気に注意してご使用ください。●このキットの製作には、ニッパー、カッター、ヤスリ、綿棒、つまようじなどがあると便利です。接着剤や塗料を使う場合は、プラスチックモデル用をご使用ください。

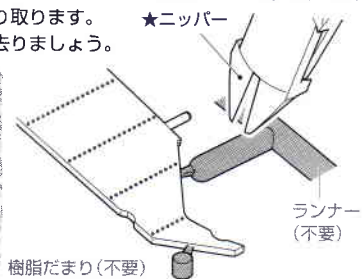
■部品の切り取り

ランナーからパーツを切り取ります。
不要な部分を丁寧に取り去りましょう。

(平らな面をパーツ側に当てる。)

★ニッパー

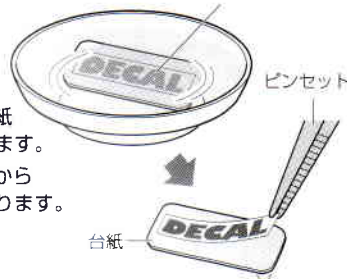
★ニッパーは、刃の裏面が平らなものをご使用ください。



■デカールの貼り方

1. 使用する部分を大きめに切り抜きます。
2. 水に20秒程浸します。
3. 水から上げ貼りたい位置に台紙からはがしたデカールをのせます。
4. ティッシュペーパーなどで上から押さえて余分な水分を拭き取ります。
5. 良く乾燥させます。

台紙ごと切り抜いたデカール



■記号の意味

- 注意してください
- ×2 セット作ります
- 穴を開けます
- 切り取ります
- 反対側も同様
- どちらか選びます
- 接着しません

■使用色

株式会社GSIクレオス (指定塗料) ※「Mr. カラー」の塗料番号です。

1	ホワイト(白)	38	オリーブドラブ(2)	518	OD色 2314
3	レッド(赤)	59	オレンジ(橙)	524	枯草色
8	シルバー(銀)	92	セミグロスブラック		
33	つや消しブラック	316	ホワイト FS17875		

■キット内容

※キット内容を必ずお確かめください。万一、欠品や不良等ございましたら当社までご連絡ください。 ※3台分のキットが入っております。

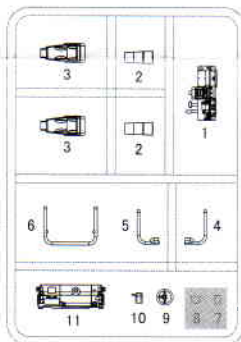
A 部品(×2)



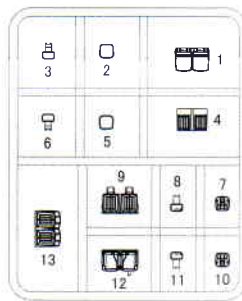
デカール(×2)



D 部品(×2)



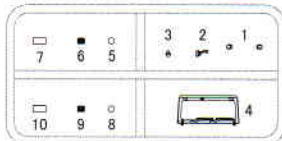
E 部品(×2)



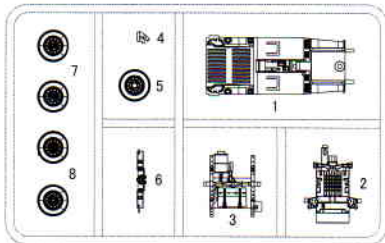
F 部品(×1)



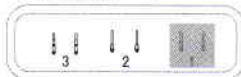
B 部品(×2)



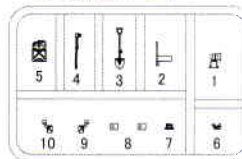
C 部品(×2)



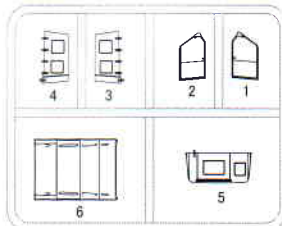
H 部品(×2)



K 部品(×2)



G 部品(×2)



J 部品(×2)



■部品請求

部品を無くしたり破損した場合は、必要な部品・数量などをお手紙や E-mail または FAX などでご連絡ください。当社より消費税・送料の総額、送金方法などをご連絡申し上げます。部品や印刷物には数量に限りがあり、万一在庫切れの場合にはお客様の要望にご対応できない場合もございます。何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

※事前のご相談や連絡無く、直接現金を送ることはお控えください。何卒お願い申し上げます。

郵便振替のご利用方法 ※郵便振替をご利用の場合は、部品請求カードは不要です。

- 口座番号欄 00860-1-121953
- 加入者名欄 フジミ模型 株式会社
- 通信欄 ご注文のシリーズ名/シリーズ No./バーコード No./製品名称/パーツ No./数量
- 金額欄 パーツ代 × 数量の合計金額 + 消費税・送料の総額

フジミ模型株式会社「アフターサービス係」 FAX(054)286-0349
〒422-8033 静岡県駿河区登呂4-21-1 support@fujimimokei.com

723044 1/72 72M-13 陸上自衛隊 1/2t トラック(警務隊)

- A 部品 300 円
- B 部品 300 円
- C 部品 400 円
- D 部品 400 円
- E 部品 400 円
- F 部品 200 円
- G 部品 400 円
- H 部品 200 円
- J 部品 200 円
- K 部品 300 円
- デカール 400 円
- 説明書 250 円

(価格は1枚分です。)

※価格に送料・消費税は含まれておりません。必ず事前に E-mail または FAX にて当社までお問い合わせください。

郵便番号 ☎ _____ 氏名 _____
住所 _____

塗装とマーキング例

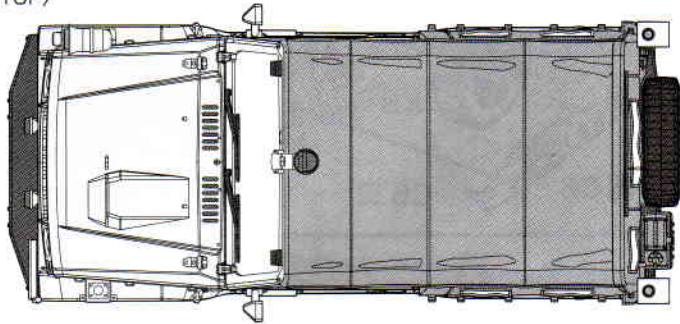
車体色： 316

《後期型》

《SIDE》



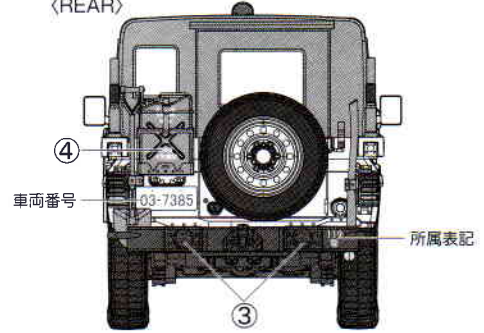
《TOP》



《FRONT》



《REAR》



《前期型》

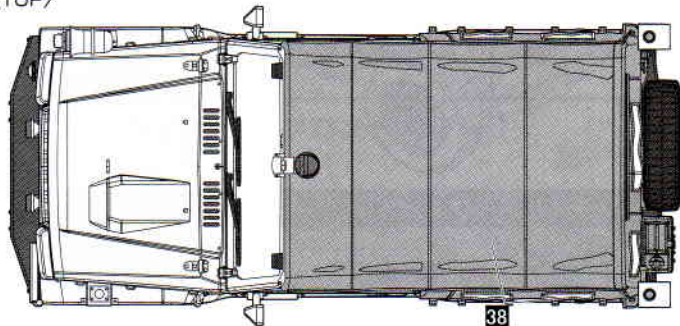
車体色： 316 幌色： 518

※ライトガードを取り付けた状態です。

《SIDE》



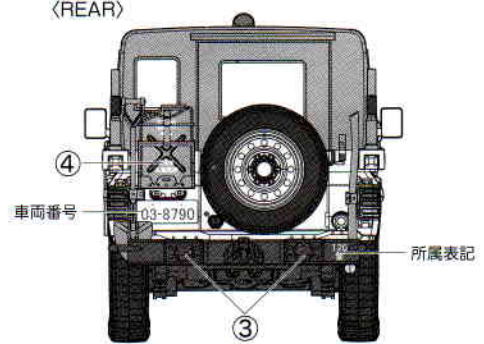
《TOP》



《FRONT》



《REAR》

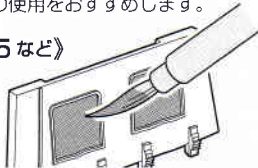


※塗装パターンは一例です。個体差や年次差が多いので色指示と異なる箇所があります。実車の写真や資料など活用しながら製作してください。

Points!

細かい部分のマスキングには、マスキングゾルの使用をおすすめします。

《G3,4,5 など》
ウィンドウ



部品のマスキングする面に塗り、乾燥したら上から塗装します。塗料がほぼ乾きはじめ～乾いてからマスキングを剥がして出来上がり。(はみ出した部分はカットします。)

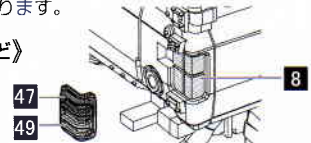
株式会社 GSI クレオス
(指定マスキング剤) Mr. マスキングゾル改



- テクニック -

赤・橙ライト塗装の際、3159は、クリアー4749に換え、背面(下地)にシルバーを塗装するとよりリアルになります。

《B6,9 など》

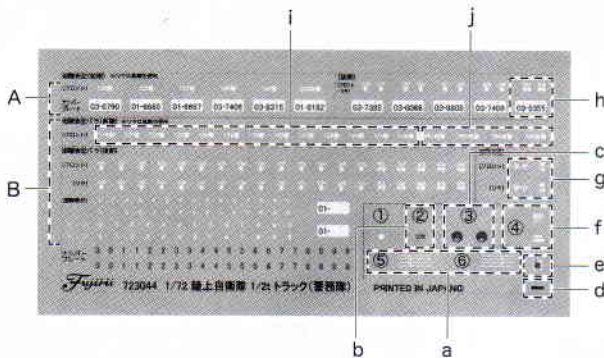


47
49

8

■デカールの使い方

1/2 tトラックは全国に駐屯する各部隊が装備・運用する汎用支援車両であり、警務隊でも多数が使用されています。製品では簡単手軽に再現できる組合せ済み番号 / 所属から、バラ文字を集めて固有のタイプに仕上げられるよう収録をしています。



A. 簡単に車両番号・表記を仕上げたい時には、組合せ済みを使用してください。縦に番号と所属部隊の組合せができています。

B. 希望の番号と所属部隊にしたい場合に使用するバラ文字です。

a. 簡易的にヘッドライト部のガードを再現するもので、クリアー部品に貼り付けた上で利用してください。

b. 助手席前のダッシュボードに必ず貼付されている「トランスファ取り扱い」についての表記。

c. 尾灯で、このまま貼れば消灯状態を、赤く塗った上から貼れば点灯状態を再現できます。

d. サイレンのコントロールパネルでラジオの下方段にあり、赤色灯搭載車ならではの装備です。

e. 演習時に統制部隊所属を表す表記で、フロントガラス助手席側の内側に掲出されるもの。

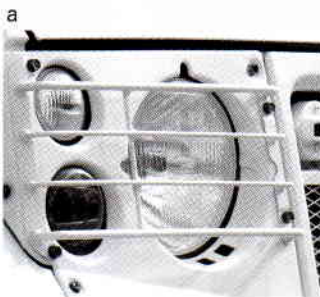
f. 背面にある燃料携行缶の表記。携行缶と固定ベルトはOD色。缶受けは白色です。

g. 各師団付属の車両が使用している場合の表記で、頭に師団 / 旅団番号を組み合わせて使用してください。

h. 第302保安警務中隊で、国営等に対し儀仗 / 栄誉礼を行う部隊の表記・車番です。

i. 地区警務隊の表記類で比較的目的にすることが多い部隊。

j. 保安警務中隊の表記で5个方面隊に配置されている部隊。



■参考資料画像

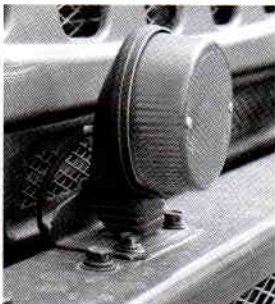
※解説中の「C-」表記は「Mr. カラー」の塗料番号です。



【フォグライト】V16型の前期は1灯、後期は2灯フォグを装備。ライト光は黄色で、バルブが黄色・レンズは透明。正面から見ると反射鏡にバルブ色が反射しあたたかもレンズが黄色いように見えます。模型では銀色に塗ってクリアイエローを塗るか、銀色とするか、イエローを塗るかは好みがわかるところ。



【タイヤハウス】無骨な作りをしているタイヤハウスは、全体的に車体色と同色で塗装されています。写真は前輪ですが天面から後方部にかけて黒色の覆いがついています。製品でもタイヤハウスの天面前方に凸線があり、塗り分け線として活用できるようにしてあります。後輪部は後方面のみ黒色です。



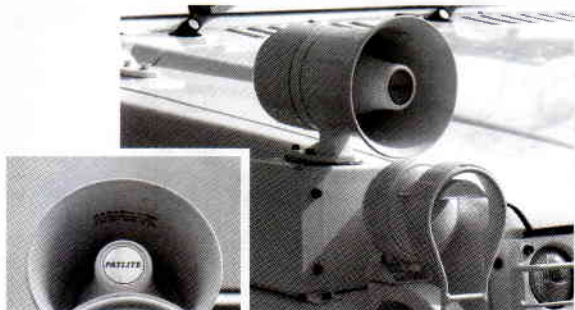
【赤色灯】警務用は赤色灯が搭載されており、フロントガラス上部には専用の架台へ散光灯を装着、配線は架台右の内側に固定されます。架台は車体色のホワイト、ライトの基部（底面）は銀色です。前面警光灯はバンパーにボルト留め、ライトは前方と側方に光を放ちます。後部は黒い樹脂製カバーで覆われています。



【車体底面】基本的に黒色で、軽装機動車のように緑色系ではなく民生車両に近いスタイルです。マフラーは銀色の耐熱塗料で塗装されており写真のように排気管からマフラーが銀色です。タイヤホイールはOD色車体とは異なり、ボディの白色と同色となっています。

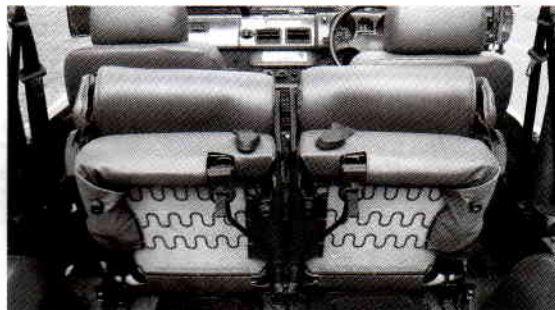
■参考資料画像

※解説中の「C・」表記は「Mr. カラー」の塗料番号です。

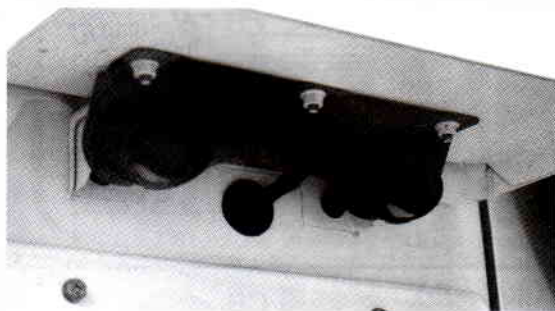


【サイレンスピーカー】 赤色灯とともに特有の装備品としてアンプがあり、右前方の管制前照灯後部に取り付けられています。ホーン部中心はメーカー表記が銀色でされており、ホーン後部は材質の関係が僅かに黄色みを帯びた白色となっていることが多いです。ホーン後部中央もメーカー銘板があり銀色になっておりアクセントポイントに。

【アンテナ】 スピーカー装備の反対側、車体左側にはアンテナおよび無線配線を通す穴の蓋があります。色調はいずれも黒色。そばには方向指示器が埋め込まれており、製品では塗りやすくピン角の形状としてありますので色差にチャレンジしてみてください。オレンジを、または銀色の下地にクリアオレンジを塗るとよいでしょう。



【座席】 座席は防衛省仕様書に定められる車体用OD色とは多少色調が異なるように見え、「C524」「C512」を使用するとよいでしょう。第2列席の座面裏側はクッション材が露出しており「C19」で塗り分けると実感的になります。座席側面には黒色の樹脂製カバーが所々ついており製品でも凸を彫刻等で再現しています。



【ナンバー照明灯】 後部の車両ナンバー上、携行缶受けの裏面にはナンバープレート照明灯が備わっております。製品でもこの小さな装備品を繊細な彫刻で再現しているので黒く塗り分けにチャレンジしてみてください。



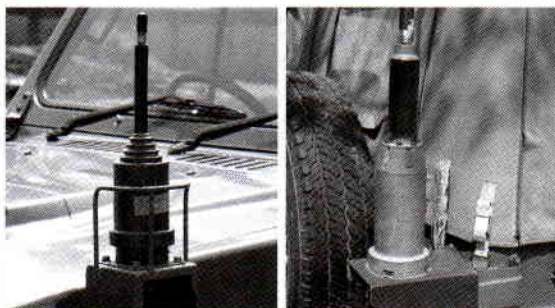
【ロールバー】 警務隊が使用する白色車両は、車内の内側（鉄製の露出部）およびロールバーは白色です。またフロントガラス枠の内側、ドア内側や床面も全て同様です。ダッシュボード部のみ通常タイプと同じ樹脂製のOD色となっています。



【車載無線機】 製品では従来型の野外無線機をパーツ化しています。JVRC-70系/80無線機をモチーフにしており、これは師団・旅団以下〜中隊長以上で各部隊が指揮連絡を行うための車載型無線機と言われています。本体外観はOD色で、操作パネル部は黒系統の色調、無線機1機に対しアンテナ1本が搭載されます。



後部背面にはショベルや斧が車載されており、携行缶とともにOD色で塗られています。携行缶受け、予備タイヤのホイールは車体同様の白色。幌は車体の指定OD色とは色味が異なり「C320」などを使用すると雰囲気が出ます。



【無線機アンテナ】 いずれも野外無線機用のアンテナですが、調達年次や製造メーカーにより外形に種類があります。左が古いタイプで空中線「JAT-F12」、製品ではH2部品がこれに該当します。右が従来タイプの一つで「JAT-F30」、製品ではH3部品がこれにあたります。いずれかを選択すると実感的となります。